



2008年10月8日

各 位

会社名：株式会社ゼンショー  
 代表者名：代表取締役社長 小川 賢太郎  
 （コード番号 7550 東証第1部）  
 問合せ先：グループ経営本部 GM 中根 利宏  
 （TEL：03-5783-8818）

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2008年5月15日の決算発表時に公表いたしました2009年3月期（2008年4月1日～2009年3月31日）の業績予想を、下記のとおり修正いたします。

#### 記

#### 1. 連結業績予想の修正

(1) 2009年3月期第2四半期連結累計期間（2008年4月1日～2008年9月30日）  
 （単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当り四半期純利益
前回発表予想(A)	151,660	7,450	6,950	2,220	18.90円
<b>今回修正予想(B)</b>	<b>149,128</b>	<b>4,360</b>	<b>3,525</b>	<b>1,348</b>	<b>11.47円</b>
増減額(B-A)	2,532	3,090	3,425	872	-
増減率	1.7%	41.5%	49.3%	39.3%	-
前期(2008年3月中間期)実績	138,273	8,413	8,553	2,826	24.06円
<参考>対前年同期増減率	+7.9%	48.2%	58.8%	52.3%	-

(2) 2009年3月期通期連結累計期間（2008年4月1日～2009年3月31日）  
 （単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り当期純利益
前回発表予想(A)	312,300	17,200	16,000	6,000	51.07円
<b>今回修正予想(B)</b>	<b>319,652</b>	<b>9,611</b>	<b>8,117</b>	<b>3,047</b>	<b>25.94円</b>
増減額(B-A)	+7,352	7,589	7,883	2,953	-
増減率	+2.4%	44.1%	49.3%	49.2%	-
前期(2008年3月期)実績	282,498	15,268	14,190	5,196	44.23円
<参考>対前年同期増減率	+13.2%	37.1%	42.8%	41.4%	-

## 2. 個別業績予想の修正

(1) 2009年3月期第2四半期累計期間(2008年4月1日~2008年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当り四半期純利益
前回発表予想(A)	61,650	3,115	3,030	1,600	13.62円
<b>今回修正予想(B)</b>	<b>64,637</b>	<b>2,279</b>	<b>1,891</b>	<b>1,004</b>	<b>8.54円</b>
増減額(B-A)	+2,987	836	1,139	596	-
増減率	+4.8%	26.8%	37.6%	37.3%	-
前期(2008年3月中間期)実績	52,381	3,721	4,196	1,602	13.64円
<参考>対前年同期増減率	+23.4%	38.8%	54.9%	37.3%	-

(2) 2009年3月期通期累計期間(2008年4月1日~2009年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り当期純利益
前回発表予想(A)	132,000	7,900	7,600	4,100	34.90円
<b>今回修正予想(B)</b>	<b>140,324</b>	<b>4,950</b>	<b>4,404</b>	<b>3,235</b>	<b>27.54円</b>
増減額(B-A)	+8,324	2,950	3,196	865	-
増減率	+6.3%	37.3%	42.1%	21.1%	-
前期(2008年3月期)実績	112,070	7,895	7,559	3,067	26.11円
<参考>対前年同期増減率	+25.2%	37.3%	41.7%	+5.5%	-

## 3. 修正の理由

(1) 第2四半期累計期間

当第2四半期累計期間の連結売上高につきましては、米国サブプライム問題を背景としたガソリン価格の上昇、世界的な食材価格の上昇などを受け、消費者マインドが低下し、郊外におけるファミリーレストランを中心とした既存店売上が計画を下回る見込みであります。また、連結営業利益及び連結経常利益につきましては、売上高の未達及び、原材料価格の上昇幅が想定を上回ったことにより、計画を下回る見込みであります。なお、連結四半期純利益につきましては、持分法適用の関連会社(カップ・クリエイト株式会社)の株式売却に伴い、経常利益に対する減少幅が少なくなる見込みであります。

当第2四半期累計期間の個別売上高につきましては、「すき家」における既存店前年比は計画を0.9%下回ったものの、グループ共同仕入における取扱量が増加した結果、計画を上回る見込みであります。営業利益、経常利益につきましては、「すき家」の売上高未達及び、原材料価格の上昇幅が想定を上回ったことにより、計画を下回る見込みであります。

( 2 ) 通期

下期の経営環境につきましては、厳しい環境が継続することを想定しており、既存店売上高や原価につきましても、第2四半期累計期間の状況が継続するものと見込んでおります。また、2008年10月8日発表の株式会社華屋与兵衛（下期予想：売上高101億円、経常利益1億円）の連結化を見込んでおります。これらを踏まえ、当通期の連結売上高は計画を上回る見込みであり、連結営業利益、連結経常利益、連結四半期純利益は計画を下回る見込みであります。

当通期の個別業績につきましては、第2四半期累計期間の修正を踏まえ、既存店売上高や原価につきましては、下期も厳しい環境が継続することを想定し、売上高は計画を上回る見込みであり、営業利益、経常利益、当期純利益は計画を下回る見込みであります。

なお、当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策のひとつと考え、積極的な業容の拡大と内部留保金の充実を図りながら、業績に応じた利益配分を行うことを基本方針としております。当方針に従い、当期の配当につきましては、中間配当として1株につき6円、期末配当として6円、年間配当を12円とした、2008年5月15日公表の内容に変更はございません。

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上